

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ぐろうさぼーと天満		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小規模だからこそ職員が目が行き届きやすく、こどもの様子を把握できる。	送迎時や連絡ノートで子どもの様子や気づきを個別に伝えるようにし、こどもの成長や想いを保護者と共有するように努めている。	職員同士でもこどもの様子をより共有するよう、ミーティングなどで取り上げる。
2	こどもそれぞれの特性に配慮した関わりにより、一人ひとりのより良い成長が目指せる。	職員がいつでも個別支援計画書を手にとれるようにしており、こどもの発達や特性について理解を共有している。	こどもの成長により変化していく支援の内容をミーティングなどで共有し、適切な介入をする。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	研修への全員参加が難しい。	非常勤勤務の者が日程が合わず参加できないことが多い。	研修方法の見直し。
2	ケース会議等での意見や案に事業所の考え方のクセが出てしまい、偏りがちである。	療育についての新しい情報収集が上手くできていない。	他事業所とも連携したり、外部研修に積極的に参加し新しいことにもチャレンジする。
3			